役員エッセイ

大通公園を望む窓辺から

自動車運転免許証を返上しました

常任理事　目黒（めぐろ）　順一（じゅんいち）

20歳で取得した免許証だが2023年５月をもって返上した。55年間の所持だった。自分の車を手に入れたのは30歳。当時、兄の勤務する信用金庫から借金してローンを組んだ。以来HONDA一筋（４台乗り継ぎ～プレリュード１台､レジェンド３台～）で、全道くまなく走った。買い物にゴルフにとても便利であった。しかし加齢による各種身体機能の衰えは進み、車の買い替え時期と相俟って、後期高齢者突入を機に返上を決めた。幸い自宅が地下鉄駅に近く（850ｍ程度、降りてから病院まで550ｍ）通勤によるウオーキングで体力維持・増進を目論んだ。2023年５月13日（土）から地下鉄（敬老パス使用）による徒歩通勤を始めた。思ったよりもハードで若干後悔したが、後戻りは不可能。翌日が日曜日だったので少し助かった。その後たまにはタクシーを使った（猛暑の日など）ものの頑張った結果、体重が３か月で４Kg減った。これに気を良くして今も継続できている。タクシーの回数は大幅に減った。また、手ぶらで歩くのが楽とわかったので、ダレスバッグ派からリュックサック派に転向した。

地下鉄で通うようになって気付いたことは、季節の変化がより明確にわかったことか。これは経路（サイクリングロード）の樹木・草花のみならず、風の匂いや他の乗客の服装で感じる。また、季節や天候に関係なく早朝からジョギングする人の多いことに驚いた。朝７時過ぎであるが車内は意外と高齢者（推測）も多く、専用座席（８席）の使用率も高い。マスクの装着率は80～85％程度か。１両の座席は（東西線は）52あるが、若者は空席があっても立っている人が多い印象。同じ顔ぶれの乗り合せもわかってきた。お互いにちらっと目線が合う。

徒歩通勤のメリットは主に健康面だと思うが、突然のお酒のお誘いにはいつでも対応可能なのが逆に不健康に繋がるかもしれない。肝に銘じている。でもお誘い大歓迎である。

1996・2024

理事　鈴木（すずき）　敏夫（としお）

本年１月７日（日）から８日（月）にかけて小樽市では1999年の統計開始以来最大の24時間降雪量を記録し公共交通機関の混乱を含め日常生活に大きな影響があった。1996年１月７日（日）から８日（月）の降雪はさらに酷かったと記憶している。道央圏では一晩で１ｍに近い積雪があり、交通は完全に麻痺した。クロスカントリースキーで移動する方もいたぐらいで、職員の１人は、玄関のドアが積雪のため外側に開かないとのことで出勤できなかった。日曜の夜からススキノで徹夜麻雀をしていた会社員が豪雪に驚きつつも雪をかき分け直接出社したところ、その日に出社できたのは自分だけであったという武勇伝も耳にした。

今年は元日の能登半島地震、翌日の羽田空港事故（1991年のロサンゼルス国際空港事故と酷似）があり、各放送局の正月番組が中断され、被災地の現状が明らかになるたびに胸を塞がれる思いだった。今回の震源地に極めて近い珠洲市では、かつて原発建設計画があり、震度７を記録した志賀町には実際に原発が建設され稼働停止中ではあったが、外部電源を受ける変圧器が破壊された。能登半島では水平方向で１ｍ以上の移動、垂直方向で４ｍの隆起を認めた場所も報告されている。

能登半島と同様、周囲に活断層のある積丹半島も西側基部に泊原発があり、半島周囲の道路網は脆弱である。

ちなみに麻雀の御仁はその後、無事定年退職され悠々自適の生活を送られているが、28年後の今回も同じく友人と卓を囲んでおり、雪のような白のロン牌で大三元をあがったとのことであるが（麻雀をしたことがないので私には何が何やらですが）、車での移動が困難となり放置して帰宅されたとのことである。

作家の安部譲二氏によると塀の中には懲りない面々がいるようであるが、塀の外も同じと考えた方が良さそうである。

ところで現在の世界の惨状を見て、大魔神（大映特撮映画）やマグマ大使、ゴルゴ13ことデューク東郷、国際救助隊サンダーバードはどうしているのかと夢想するのは昭和世代だけであろうか。どなたかゴルゴ13のスイス銀行の口座をご存じですか？